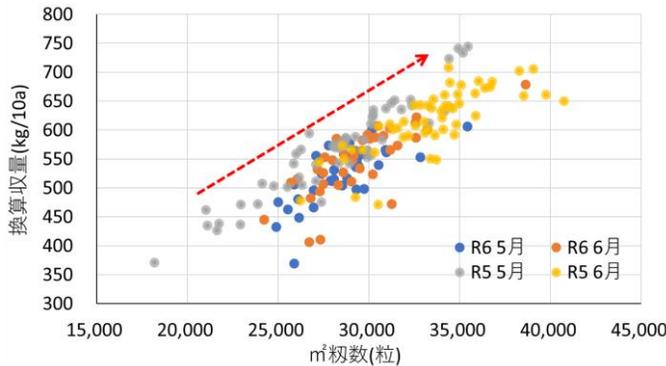


水稲「清流のめぐみ」の安定多収・良質・良食味を実現するための栽培技術等を検討しました

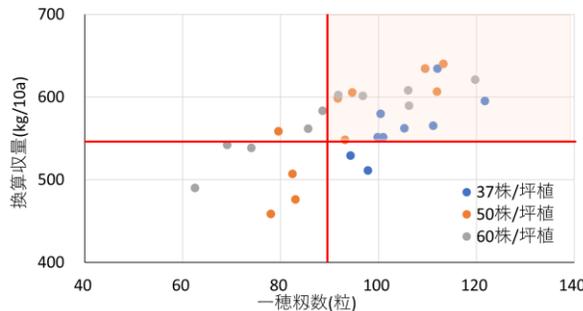
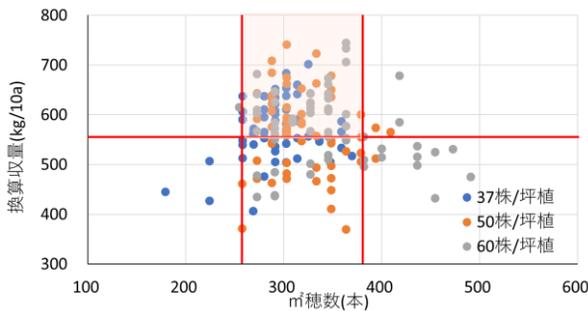
当センターで育成した水稲新品種「清流のめぐみ」は、「コシヒカリ」よりも高温登熟性や耐倒伏性に優れ、同程度の食味も有しています。現在は『「清流のめぐみ」産地づくり研究会』が中心となって栽培が進められておりますが、今後も猛暑が続くことを想定し、収量と品質を更に安定的に確保する栽培技術を検討しました。

<目標値> 坪刈収量550kg、整粒率70%以上、食味値80以上

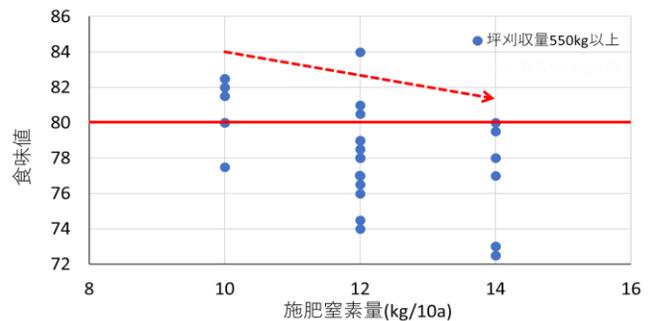
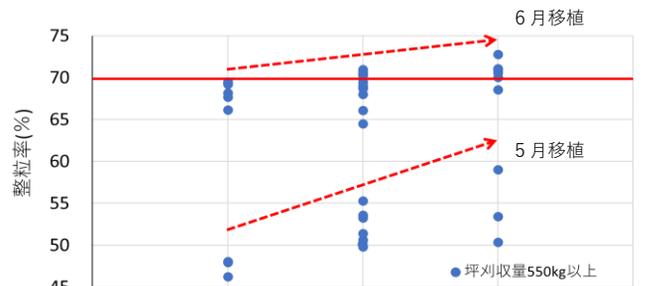


m²穂数と換算収量の関係(R5～R6)から
m²穂数が増加すると収量が増える

m²穂数を確保しながら、品質を安定的に確保するにはどうするのか？



一定量のm²穂数の確保は必要だが、
一穂穂数の確保も必要



施肥窒素量が増えると整粒率が高くなるが、食味値が下がる

(研究成果)

収量を確保するためには m²穂数の確保 が必須であった。さらに、品質を安定的に確保する栽培条件を検討したところ

- ・ 移植時期：5月中旬～6月中旬まで 高温回避の観点からは少しでも遅く移植する
- ・ 栽植密度：37株/坪～60株/坪まで m²穂数が不足しがちなほ場では栽植密度を「密」にし、m²穂数は確保できるが一穂穂数がやや不足するほ場では一穂穂数を確保しやすくするため「疎」とする
- ・ 施肥窒素量：10～12kg/10aが適量 現地ではほ場条件に合わせて増肥する